

「ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモ SPS-000Y9-7」に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）  
 についての意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 令和元年8月7日～令和元年9月5日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 2件
4. 意見・情報の概要及び食品安全委員会の回答

意見・情報の概要	食品安全委員会の回答
<p>「ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモ SPS-000Y9-」の食品安全性評価を経て実用化に向けた承認に賛成します。</p> <p>本組換えジャガイモは、ジャガイモ疫病抵抗性が付与され、高温加熱加工時におけるアクリルアミド生成量が低減され、さらに、打撲による黒斑形成を低減したものです。耐病性の付与は高生産性・生産性向上や生産の安定に直結し、打撲による黒斑形成が軽減されることは流通上の利点でもあります。また、従来ジャガイモであっても安全性は十分に確保されていますが、アクリルアミドの生成が少なければより安全性が高まります。いずれの特性も、生産者、流通業者、消費者のメリットになる形質が高まったと考えます。</p> <p>私たちは以下の理由で、本組換えジャガイモの安全性は担保され则认为ます。</p> <p>1) アレルギー性などの危険性が想定されないこと</p> <p>本組換えジャガイモに導入されている遺伝子やDNA断片は全てジャガイモの野生</p>	<p>本審議結果（案）についての御意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>なお、遺伝子組換え食品等の承認に関する御意見は、厚生労働省へお伝えします。</p>

<p>種から得られており、いずれも食経験があることが示されています。また、導入された DNA 断片 (Asn1 断片など) から新たにタンパク質が産生されないことや、導入遺伝子産物が既知のアレルゲンや毒性物質との相同性が無いことが示されています。</p> <p>2) ジャガイモ特有のグリコアルカロイドに差異がないこと</p> <p>ジャガイモは毒性物質としてグリコアルカロイドを産生しますが、本組換えジャガイモにおけるその含有量に関して、対照に用いた非組換えジャガイモとの間に統計学的有意差は認められなかったことや、グリコアルカロイド以外の栄養成分が非組換えジャガイモとの間に統計学的有意差は認められないか、或いは文献値の範囲内であったことから、本組換えジャガイモは従来のジャガイモと同等の安全性を有すると考えられます。</p> <p>3) 諸外国における認可の実績があること</p> <p>米国食品医薬品庁 (FDA) により 2016 年 10 月及び 2017 年 2 月に安全性が確認され、カナダ保健省 (Health Canada) の食品としての安全性確認及びカナダ食品検査庁 (CFIA) の飼料・環境の安全性確認が 2017 年 7 月に終了し、さらに、オーストラリアにおいて、オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関 (FSANZ) の食品としての安全性確認が 2017 年 12 月に終了しています。複数の国で食品安全性が確認されていることは、本ジャガイモの安全性を担保するために重要な情報と考えます。</p> <p>上記のことから、本組換えジャガイモは安全性が十分に確認出来、かつ、生産者、流通業者、消費者のそれぞれにメリットがあるので、速やかな認可をお願いします。</p>	
<p>じゃがいも疫病の耐性と銘打って、小手先の対策である遺伝子組換えで対応するのは自然の摂理に反する暴挙。疫病の発生要因は自然への人工的な行為の結果でありがたい根本的な解決(農薬や添加物、化学</p>	<p>いただいた御意見は、リスク管理に関するものと考えられることから厚生労働省及び農林水産省へお伝えします。</p>

肥料や遺伝子組換え食品の一切の禁止。自然農法への回帰)を図るべき。	
-----------------------------------	--